

新進作曲家

亀山法男

長野市出身

の

作品を集めて

■ソプラノとバリトンのための
12の歌曲集

1980年 10月29日(水) 6:30

会場

長野県勤労者福祉センター

“ねこ”

雑誌「新世」より

■ピアノ小品集より

〈さあ おとぎの国へ〉

〈気まぐれカウボーイ〉他

■ピアノ小品集より連弾

〈さようならSL〉

〈味気ない会話〉他



出演

ソプラノ 亀山勝子

バリトン 友竹正則

ピアノ 塚田佳男

自演

ピアノ 亀山法男

入場料

一般 1,500円

高校生以下 1,000円

後援 国立音楽大学同調会長長野県支部

私の好きな言葉に《歌うは愛するひとのわざ》という聖アウグスチヌスの一節がある。

亀山法男君の歌曲をはじめて聴いた時、まずこの言葉が私の心の中で動き始めた。この深い意味を、法男君は何のよどみもなく音符の中に刻み込んでいる。まさしく子供の汚れないところが、そのままストレートに聴く側に伝わって来るではないか。これらの曲を共感をこめて歌った恋女房勝子さんの歌のうまさを割引したとしても、これは一人でも多くの人に聴いて貰いたい曲だと強く思ったことだった。歌というものの一番純粋な美しさを、法男君は自然に歌い出すことの出来る人である。

心と心との出逢いが、勝子さんと今夕のため歌ってくれる友竹君によって、法男君の郷土信州にさわやかな風を送ってくれることを、私は約束せずにはいられない。

東京芸術大学教授 畑中良輔

亀山(旧姓 伝田)法男 略歴

長野市立鍋屋田小学校・柳町中学校・県立須坂高等学校
1976 国立音楽大学教育音楽学科卒業・故岡本敏明教授・
小山章三教授に学ぶ。

お問い合わせ 0262(35)0846・03(395)8802